

校内研究だより 第2号

南関第三小学校
令和7年7月23日
研究主任：辻田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

6月27日（金）第5校時、和水町立菊水小学校 西村奈陽子教頭先生を講師に迎え、辻田が6年国語の研究授業を行いました。

1 単元名「デジタル機器と私たち 4／8」（光村図書）

2 **グループ協議で出された意見および授業後の評価シートより**
＜良かった点＞

- ・5、6年生を相手に提案発表会を開くという相手・目的意識が明確であった。
- ・授業の始まりがスタンダード化されているのでスムーズな始まりとなった。
- ・発表ノートの共同作業は、友達の考えと自分の考えを比べながら矢印の書き込みや順番を変える作業に役立った。

＜課題・改善点＞

- ・担任の机間指導が、やや不十分だった。（何をすればいいのか分からない児童が数名見られた。）
- ・「お散歩タイム」をもっと取り入れると、対話がより充実されたと思う。
- ・活発な意見の発表の場が見られなかった。

3 **共通実践事項※R7年度、「学校化」を目指して取り組んでいきましょう。**

○キーワードの活用

○めあて・まとめ（書き出しの提示）の流れ

4 **指導・助言（和水町立菊水小学校 西村奈陽子教頭先生**

○主体的な学び「～したらもっと主体的な学びになる」とは？

- ・あえて異なる例の提示（矛盾することを問いかける。）
- ・めざす姿が「話し合う姿」だから、話し合う場面をしっかりイメージすること。
- ・分からなくなったら聞きに行くこと。（「お散歩タイム」）等

○国語力とは

- ・児童が培ってきた日常の言語を駆使する力の中に、すでに存在するもの。それを意識化させることが国語の力として捉える。答えがあいまいな国語だからこそ、「意識化＝技」の活用が求められる。

その他、R7年度「書く力を高める国語科学習」の授業づくりに向けて職員一同多くの貴重な学びをいただいた時間となりました。



（5年生からの応援ビデオを観て嬉しそうな表情の6年生）



（事後研の様子）



（菊水小西村教頭先生）